

令和7年度 夏季研修会アンケートのまとめ 全文版

考察 ※NotebookLM によるまとめ

1. 自由進度学習への関心と課題

夏季研修会では、「自由進度学習」が主要なテーマの一つとして取り上げられ、参加者の高い関心を集めました。

- **前向きな意向:** 多くの参加者が自由進度学習の導入に意欲を示しており、「個別最適な学び」や「自律した学習者の育成」に繋がると考えています。「子どもたちの学びに有効であると思うので実践してみたい」(コメント12)、「個別最適な学びに対応するためには必要な取り組みだと考えるから」(コメント22)といった意見が見られました。
- **取り組みへの意欲と実践例の要望:** 「まずはやってみることが大事だと思ったから」(コメント2)、「子どもたちの力になると思うからです」(コメント21)といった声があり、具体的な実践例を求める意見も多く、「国語での実践を知りたいです」(コメント21)、「ワークシートや実践例を参考にさせて頂いて、自分も二学期から授業をしていきたいと思いました」(コメント16)といった要望が見られます。
- **懸念点・課題:** 一方で、導入へのハードルや課題も感じられています。
- **教師側の準備とスキル不足:** 「自分の勉強不足と生徒管理ができない」(コメント1)、「まだ勉強不足」(コメント3)、「自分の技量不足」(コメント17)といった自己評価や、「教師側の工夫(場の設定含めて)次第で、全員が参加できる授業になるから」(コメント11)のように、教師側のスキルが重要視されています。
- **時間と学力への影響:** 「一单元の中で取れる時間が限られるから」(コメント15)、「本当に力が伸ばせるのか懐疑的。じっくりと取り組ませる時間が捻出できない」(コメント19)といった時間的な制約や効果への疑問も挙がっています。「学力差があり、自信がない」(コメント8)のように、多様な学力層への対応も課題です。
- **実践の難しさ:** 「うまく取り組めない生徒にどう取り組ませるか」(コメント14)、「ヒントカードなど作るのが大変だと思いました」(コメント8)といった実践上の具体的な困難も指摘されています。
- **段階的導入の検討:** 「全てではなく、単元にあった自由進度学習をしていきたいと思う」(コメント25)のように、段階的な導入や、単元に応じた活用を検討する声もありました。

2. 俳句指導の実践と可能性

午前中の演習「今だからこそ、俳句を」は、多くの参加者に具体的な指導のヒントと実践への意欲を与えました。

- **実践への強い意欲:**「勉強になりました。実践してみたいと思いました」(コメント1)、「一年生から取り組ませたい」(コメント3)といった積極的な感想が多く、「まずやってみたいなと思えました」(コメント11)と、俳句指導へのハードルが下がったことを示す声も聞かれました。
- **系統的な指導の重要性:**「三年次だけ俳句をするのはもったいないと思いました。1年に1回は実施したいと思いました」(コメント14)、「3年計画で俳句を作ることによって育まれる力が系統的に理解できました」(コメント15)といった意見から、単発ではなく、長期的な視点での指導の有効性が認識されました。
- **教師の情熱と感性の育成:**「教師が好きだと生徒にもいい影響があることは理解できます。もっと生徒に楽しく教えるために知識を増やしていきたいと思います」(コメント13)というように、教師自身の情熱が授業に与える影響が認識され、生徒の感性を育むことへの期待も示されました。「音や線としての言葉に香りや温度、風や音を感じられるような感性を育てたいなと思いました」(コメント11)。
- **指導の工夫と生徒の変化:**「なかなか作成できない生徒が多いが、指導のヒントをいただけてよかった」(コメント22)と指導の具体的なヒントが得られたことへの感謝があり、実際に「意欲的に取り組む生徒が増えた」(コメント26)という先行実践者の肯定的な報告も、参加者の関心を高めたようです。

3. 教科書改訂のポイントと ICT 活用

「教科書改訂のポイントについて」の講話は、教科書への理解を深め、ICT 活用の重要性を再認識させる機会となりました。

- **教科書への深い理解:**「改訂や作成の意図が分かると、授業を組み立てるモチベーションが上がるとなりました」(コメント5)、「教科書に込められた願いを直接聞く事ができ、教材をしっかりと活用していこうと思いました」(コメント6)といった声から、教科書編集者の意図を知ることで、より効果的な授業設計に繋がると感じられたことが伺えます。
- **ICT 教材への関心と活用意欲:**「デジタル資料など活用していないものもあったので、これから使っていきたいです」(コメント2)、「QR コードなどを上手に授業に生かしたいと思いました」(コメント7)、「ICT の教材も積極的に活用していきたいです」(コメント14)など、教科書に付随するデジタル教材の活用への関心が高まっています。
- **教材研究の深化:**「丁寧に作られた教科書を読み込んで十分に活用していきたいです」(コメント9)、「思いの詰まった教科書、まずは自分がしっかり読み込みたいと思いました」(コメント13)と、教科書を深く読み込み、活用していくことの重要性が認識されました。

4. AI と国語教育の未来

講演「人間として生きぬくための国語力を育む」は、AI の台頭が国語教育に与える影響と、これからの国語力のあり方について、参加者に大きな衝撃と示唆を与えました。

- **AIの可能性と驚き:** 「びっくりすることばかりでした。もう一度聞きたいです」(コメント1)、「AIの力を思い知った 自分の授業にどう取り組むか真剣に考えたい」(コメント6)、「驚きの連続で何かすればよいか、混乱しました」(コメント15)など、AI技術の進化に対する驚きと、それが教育にもたらす可能性への戸惑いが入り混じった感想が多く見られました。「目の前で AIを使ったアプリ制作に驚愕した」(コメント21)という具体的な体験は、強い刺激となったようです。
- **国語力の再評価:** AI時代における国語力の重要性が強調され、「AIを使うにしても国語力が大切であることを痛感しました」(コメント9)、「国語力の必要性を改めて感じました」(コメント19)と、その認識を深める機会となりました。
- **AIとの向き合い方:** AIを「ずる」と捉えるのではなく、「どう使うかが求められているんだなと思いました」(コメント23)と、教師自身が積極的にAIを活用していくことの重要性が示されました。「生成 AIなどもまず自分で使ってみて授業に生かしたいです」(コメント9)といった意欲が見られます。
- **ICT環境の課題:** AIを活用する上での課題として、「1人1台端末ですが、故障や予算不足で全員の手元にないのが現状です。この現状と今の技術の進み具合との乖離を感じました」(コメント14)と、インフラ整備の遅れが指摘されました。
- **教師の資質向上:** AI時代に対応するため、「生成 aiを利活用できるような教師としての資質を高めたいと感じました」(コメント17)と、教師自身のスキルアップの必要性が認識されました。

5. 総括と今後の研修への期待

今回の夏季研修会は、参加者にとって「明日から頑張ろうと思える研修会」(コメント2)、「学びがいっぱいで、あっという間の時間でした」(コメント20)となる、非常に有意義なものであったと総括できます。

- **研修会の満足度:** 全体を通して、多くの参加者が「大変勉強になりました」(コメント18)、「とても勉強になった」(コメント13)と高く評価しています。
- **若い教師への刺激:** 「若い先生方の熱意に触れて新鮮な感動を覚えた」(コメント7)、「若い先生の頑張りに刺激を受けた」(コメント17)と、若手教師の実践がベテラン教師にも良い影響を与えたようです。
- **今後の研修への期待:** 自由進度学習の実践例や、具体的なデジタル指導の方法、評価・テスト作成のあり方など、実践に直結する内容への研修深化を求める声が多く聞かれました。特に、「自由進度学習の実践例を鹿児島県のみならず、力を入れている石川県でも構わないので色々な方の話を聞きたいと思いました」(コメント12)と、県外の先進事例への関心も示されました。

この研修会は、国語教育の現在地と未来を見据え、参加者が自身の授業実践を振り返り、新たな挑戦への意欲を高める貴重な機会となったと言えるでしょう。